

6月の安全運転のポイント 平成23年6月号

雨天時は路面が滑りやすくなるだけでなく、視界も悪くなり安全確認が不十分となって、危険の発見が遅れたり危険を見落としやすくなります。そこで今回は、雨天時の安全走行のポイントについて考えてみましょう。



雨天時走行の危険性

路面が滑りやすく停止距離が長くなる

雨天時は路面が濡れているため滑りやすく、車の停止距離が乾燥した路面のときよりも長くなります。特に雨の降り始めは、道路表面の土ぼこりや砂がオイル状になり、路面に油をひいたような状態になるため最も滑りやすくなるといわれています。

視界が悪くなり安全確認が不十分になりやすい

雨天時は視界が悪くなります。特に側方や後方は、サイドミラーやリアウインドーに付着した水滴でより見えにくい状態となるため、進路変更時や左折時に側方や後方の安全確認が不十分となり、バイクや自転車を見落とすことがあります。

また、バック時も後方の視界が悪いうえに窓を閉めたままでバックするドライバーが多く、後方の安全確認が不十分になりがちです。

歩行者も視界が悪くなり周囲に対する注意が欠けやすい

雨の日は車だけでなく、傘をさした歩行者も視界が悪くなります。しかも、路面の状態を気にしているため周囲に対する注意が欠けやすく、接近してくる車に気づかずに道路に出てくる場合があります。

雨の降り始めは歩行者等が危険な行動をとることがある

傘を用意していない歩行者や自転車は、雨が降り始めると早く目的地へ行こうとしたり、適当な場所で雨宿りしようとする先を急ぎがちです。そのため、車に対する注意が欠けて、十分な安全確認をせずに道路を横断したり赤信号の変わり目で強引に交差点を渡ってくる場合があります。



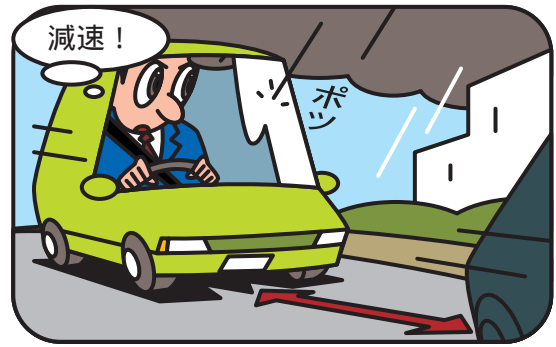


雨天時の事故防止のポイント

スピードを落とし車間距離をとる

雨天時は停止距離が長くなるとともに、視界が悪いため危険の発見も遅れやすくなります。雨が降り始めたら、すぐにスピードを落とすとともに、車間距離もいつもより長くとりましょう。

また、急ハンドル・急ブレーキはスリップの大きな原因となりますから、絶対に避けましょう。



進路変更時等は後方の安全確認をしっかり行う

進路変更時や左折時には、サイドミラーをよく見るだけでなく、振り向いて後方を確認するなどして後続車を見落とさないようにしましょう。

バックするときも、慎重に後方を確認し、いつでも停止できる速度で徐々にバックしましょう。



歩行者や自転車の動きに注意する

前方に歩行者や自転車を見かけたときは、車に気づかずに道路を横断してくるかもしれないと考えて、スピードを落とすとともに、歩行者や自転車の動きに十分注意しましょう。

また、雨の日は路肩に水たまりができやすいため、歩行者や自転車が水たまりを避けて車道に出てくることもありますから、前方の路面の状況にも注意して、歩行者や自転車がどのような動きをするかを予測しながら運転しましょう。

なお、歩行者や自転車の側方を通過するときには、十分な側方間隔をとるとともに、泥や水をはねかけないように注意しましょう。



出発前には車両の点検を行いましょう

雨天時に溝がすり減ったタイヤで走行すると、停止距離が一層長くなるだけでなく、スリップする危険も大きくなります。また、ワイパーが正常に作動しないと視界が確保できません。雨天時や雨が降り出しそうな時は出発する前に、特にタイヤの溝やワイパー、エアコンやデフロスターの作動状態などの車両点検を確実にしましょう。



「ご相談・お申込先」